

二・十・三・球・目・



「ホップ・ステップ・観光元年」



半田 杉原純夫

**今年は「観光元年」
全国に向けて魅力を発信！**

2014年の訪日外国人旅行者の数は、前年の1,000万人を大きく上回り、1,300万人を超え、外国人旅行者による旅行消費額についても大幅に拡大したことです。

観光庁は「観光振興による地方創生」を目指し、訪日外国人旅行者の受入環境の充実を推進することで満足度を高め、リピーターの増加に取り組んでいます。

本市も、この地域の経済や街の活性化に観光が大きく寄与していくものと捉えて、平成27年度を観光元年と位置づけ「観光振興」に力を注いでいます。

半六庭園の開園をはじめ、7月の半田赤レンガ建物、秋のミツカンミュージアム（愛称MIM）のオープンを控える中、蔵のまちエリアから半田赤レンガ建物の回遊ルートを整備するとともに、本市の観光資源、醸造文化をPRする「いい味、かも

しだす。半田」をキャッチフレーズに積極的に観光PR、まちの魅力発信に努めているところです。

**歴史と文化を今に残す
魅力溢れる観光スポット**

半田運河周辺の蔵のまちエリアには、半六庭園をはじめ小栗家住宅、國盛酒の文化館など、ミツカンミュージアムも含め観光資源が充実しています。

特に半六庭園は、観光客の皆様にも、江戸時代に醸造業や海運業で栄えた面影を残す景色を眺めながら、くつろいでいただける観光スポットになればと思っています。



半田赤レンガ建物は、明治31年、当時の建築界3大巨匠の一人、妻木頼黄（つまぎよりなか）の設計により、カブトビールの製造工場として建造されました。レンガの建物としては全国屈指の規模を誇り、国登録有形文化財にも指定されています。

その重厚な佇まいは、日本のビール黎明期に、四大ビールメーカーに立ち向かった起業家精神と技術力を現代に伝えています。

赤レンガ建物は、市内の主要観光スポットをつなぐ「まちの回遊拠点」として、そして知多半島観光のランドマークとして、装いも新たに7月18日から常時公開します。本市を訪れる皆様には、おもてなしの場として、また市民の皆様には憩いの場として、ぜひ復刻したカブトビールを片手に明治期に思いを巡らせ、半田の魅力を感じていただきたいと思っています。

なお、半田赤レンガ建物の各種情報は、市ホームページをご覧ください。

**日本の接遇は世界一
「おもてなしの心」を大切に**

世界経済フォーラムが発表した2015年の旅行・観光競争力指数によると、日本は世界で総合9位、項目別で顧客の接遇が世界一となり、日本の「おもてなし」の心が高く評価されたということです。

本市も以前から「おもてなし」の心を大切にし、観光行政に積極的に取り組んできました。今後もこの地域の経済を潤し、市民の皆様にとつて誇りと愛着の持てる活気にあふれた半田の実現に向け観光振興に努めていきます。

今年の夏も、東海地方は厳しい暑さが予想されています。市民の皆様には熱中症対策など体調管理には十分注意していただき、この夏の猛暑を乗り越えていただきたいと願っております。

